

滋賀県文化審議会評価部会第 17 回会議の概要 (令和元年 7 月 9 日開催)

1 議題

- (1) 平成 30 年度の滋賀県文化振興基本方針(第 2 次)評価指標の実績について
- (2) 評価指標の見直しについて
- (3) 令和元年度における個別事業評価について

2 主な意見等

議題(1) 平成 30 年度の滋賀県文化振興基本方針(第 2 次)評価指標の実績について

- 目標値には、現場の改善によって数値の改善にすぐつながるものと文化政策をうったからといって数字の改善につながらないものがあると思う。その 2 つは区別して考えるべき。
- 必要な施策が届けたい対象に届いていないために、目標に達していないことも考えられる。どうすれば情報を必要としているところに届けられるかの検討もするべきだと思う。
- 平成 30 年度で目標値をすでに超えているものと下回っているものがあるが、これは優しく言うと目標値が控えめ、厳しく言うと目標値が甘いということだと思う。
- 目標値の現状報告があった中で、目標値に相当届いていないものは、何かしらのテコ入れが必要だと思う。
- 今後、第 3 次の文化振興基本方針では、目標値の変更を 2 年毎にやるような弾力性があってもいいかもしれない。
- 長期や中期のアウトカム指標が簡単にでないものについては、アウトプット指標で代用することを認めても良いと思う。アウトカム指標とアウトプット指標を併用しても良いのではないか。

議題(2) 評価指標の見直しについて

- 重点施策 1 の「文化による本県ブランドの向上と国内外への効果的な発信」に関して、取り組んでいる文化施策ですぐに観光客の滋賀県ブランドの印象が変わるという訳ではない。なぜブランド力の向上を図るのかという戦略をはっきりさせることも重要である。
- 指標が変わると、長期で見るべきものの過去の指標との連続性をどう担保するのかが問題である。指標を変える際には、そのことを視野に入れてはどうか。
- 最近、SNS が指標に使用されるが、SNS をどういう風に活用するのか、あるいは中身をどうするのという議論なしには、政策目標と指標とがうまくつながらないのではないかと思う。
- 重点施策 1 の「文化による本県ブランドの向上と国内外への効果的な発信」に関して、隣の京都には国外の人が山のように来ている。そういう人をどう取り込むか、戦略を考えることも重要だと思う。

議題(3) 令和元年度における個別事業評価について

- 今年度の個別事業評価については、びわ湖芸術文化財団の「ホスピタルコンサート」(9～11 月開催予定)と滋賀県立近代美術館の「令和元年度 滋賀近美アートスポットプロジェクト vol.2『Symbiosis』」(9 月 21 日～10 月 20 日)で実施。
- 日程が未確定のため、事務局から別途日程調整のうえ決定する。

以 上